ダム湖の陸封アユを増やす取組

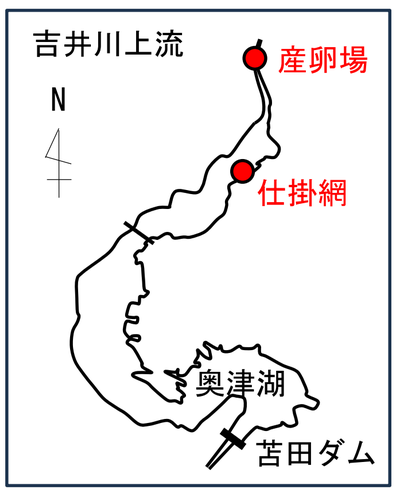
奥津湖の陸封アユの現状と増大に向けた産卵場造成の取組

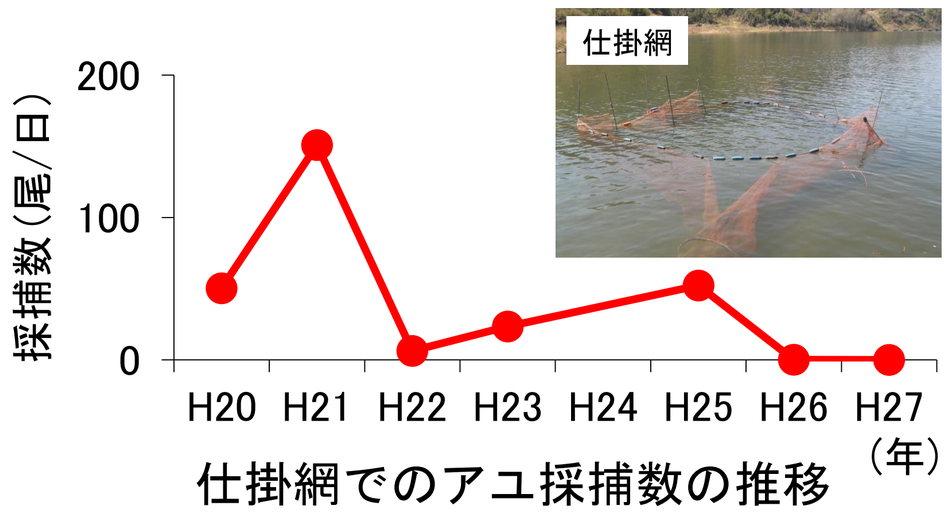
【背景・目的】

奥津湖では、平成17年の苫田ダム完成後数年は川と海を往来しない陸封アユが多数確認されていました。一方、増大に向けて令和3年から地元漁協が産卵場を造成しているものの、近年はその姿が見られていません。本報では、造成後の産卵状況調査などから陸封アユの現状について考察しました。

＜陸封アユの採捕数の推移＞

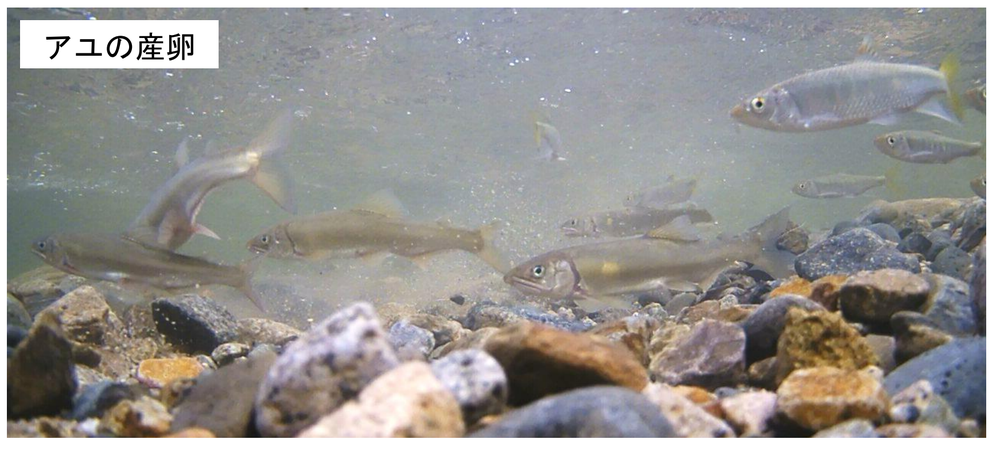
平成21年の春季(3～4月)には約150尾/日の採捕がありましたが、平成26年以降はほとんど見られなくなりました。





仕掛網でのアユ採捕数の推移

＜地元漁協の産卵場造成の取組＞



【成果の内容】

＜想定される再生産の流れ＞

9～10月 産卵 → 10～11月 ダム湖への流下 → 12～3月 ダム湖での成長 → 4月～ 遡上

＜調査結果(R3～5年度)＞

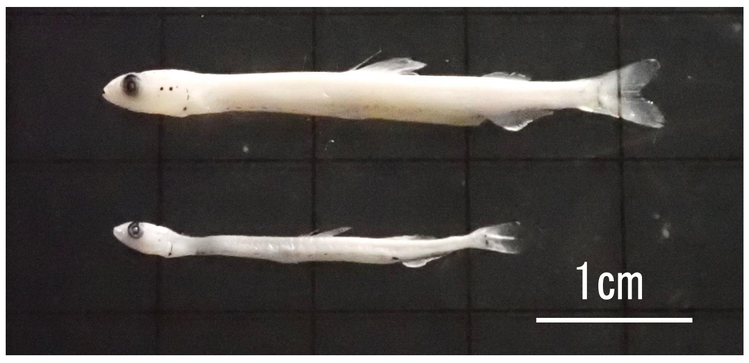
①造成後の産卵状況調査

アユの産卵を確認(10月)

親魚や卵の捕食生物も確認

②ダム湖での稚魚調査

アユの稚魚を確認(1月)



稚魚から幼魚への段階で減耗

③春の遡上調査

遡上アユは未確認

水中カメラによる連続調査で確認されるのは、カワウ、アマゴ等

多様な捕食生物が存在する中で、幼魚まで生き残るための卵～稚魚の絶対量が不足していると考えています。

陸封アユの存在は、ダム湖を利用した自然の再生産サイクルの象徴的な事象であり、釣り人へのPRなど地域の賑わいの創出に繋がると考えられます。春に陸封アユが確認できる成育・環境条件を捉えられるよう、調査を継続していきます。

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター　水産研究所

瀬戸内市牛窓町鹿忍6641－6　ＴＥＬ．０８６９－３４－３０７４